

臨床検査科

1. 抄読会

1) 平成19年1月18日

羽沢 さゆり : 口腔ケア

参考文献 ; 菊谷 武 : 口腔内感染症. 五島 瑳智子, Q&A で読む細菌感染症の臨床と検査. 国際医学出版 (株), 東京, 2005, 31

2) 平成19年 2月19日

小松 和子 : 老人性難聴

参考文献 ; 日野原重明, 井村裕夫, 喜多村 健編, 看護のための最新医学講座 ; 耳鼻咽喉科疾患, 中山書店, 東京, 2002, 107-109、44.

丸岡 智史 : 病理標本作製法

参考文献 ; 阿部 仁 : 病理標本作製法 ; 各種染色法. 検査と技術 34 938-942, 2006.

和田 忠士 : 髄膜炎とは?

参考文献 ; Api ニュース, 日本ビオメリューK・K

3) 平成19年 4月12日

黒滝 日出一 : アクアポリン aquaporins (AQP) について

参考文献 ; Peter Agre : The Aquaporin Water channels
Pro AmThorac Soc 2006 ; 3 : 5-13.

4) 平成19年 6月14日

畠山 敦子 : 交通事故で血液型検査を実施する時間がないため、O型輸血をされて搬入、その後の輸血対応

参考文献 ; 押田真知子 : 部分凝集のあるケース ; 交通事故で血液型検査を実施する時間がないため、O型輸血をされて搬入、その後の輸血対応.

MedicalTechnology 31 : 1645-1648, 2003.

工藤 協子 : 臨床検査技師の貢献

参考文献；早川美恵子：チーム医療にかかわる臨床検査技師の貢献。
MedecalTechnology 35：205-206、2007.

5) 平成19年11月22日

松本 典子：赤血球沈降速度

参考文献；奥村伸生・藤原祝子、赤血球沈降速度. 検査と技術 35
337-341、2007

佐藤江利子：除脈について

参考文献；日当直者のための心電図症例集. 37

渡辺 智：純音聴力検査

参考文献；日本聴覚医学会、聴覚検査の実際、4、南山堂、東京、2002、
44-53

6) 平成19年12月13日

市川 聡：病理検査におけるインシデントの現状と対策

参考文献；小林博久：病理検査におけるインシデントの現状と対策
MedecalTechnology 35：374-375、2007.

魚住美保子：頻脈について

参考文献；渡辺重行・山口巖：心電図の読み方パーフェクトマニュアル、
羊土社.

佐藤多喜子：全自動輸血検査システム AutoVue による検査実施について

参考文献；MedecalTechnorogy 35：900-946、2007.
医学検査 54：11-22、191-202、2005.
JapaneseJournal ofTrannsfusionMedicine 47, 384-389、
2001.51,565-570,2005.

2. 学会発表

1) 糖尿病について

平成19年度県北支部研修会 平成19年10月27日（北秋田市）

○ 工藤 協子

①糖尿病の診断基準 ②日本糖尿病療養指導士について

③当院における糖尿病指導について発表した。新病院の検査室紹介。

2) 当院における血管留置カテーテル感染症サーベイランスの動向と問題点

～ 感染率の低下をめざして ～

看護部主任会 2007年1月4日 (院内新館図書室)

太田和子

- ・ カテーテルサーベイランスを始めるに至った経緯
- ・ 感染率を求めるための情報収集について
(医事課の強力な協力・臨床経過表・個人シート)
- ・ 個人シートによる科別解析による実績、向上
- ・ マキシマムプリコーションで挿入しているにもかかわらずなぜ感染？
- ・ ドレッシング材の貼替時の提案
 - ① 手洗い②ディスポ手袋をはく③ドレッシング剤をはがす (皮膚のダメージ軽減に注意) ④イソジン消毒 (有機物の除去) ～1回目⑤イソジン広範な消毒と乾燥～2回目⑥ディスポ手袋の取替え⑦新しいドレッシング剤を貼る⑧手洗い
- ・ 2005年のカテーテル感染の問題点 MRSAの増加
- ・ 院内環境のMRSAによる汚染の実態 (7病棟の例)
- ・ 感染率の低下をめざして・・・個人シートを受け持ちのナースが観察/記入
※講演後のディスカッションから：①病棟によりドレッシング材の貼替時の手順が異なっていた。統一化の必要あり！②イソジンの使用時、スワブから綿球へ変更！

3) 『耐性菌と血流関連カテーテルサーベイランス 最近の動向』

医局集談会 2007年6月21日 (院内医局)

臨床検査科 細菌検査室 ○太田和子 羽沢さゆり 佐藤謙太郎

はじめに、トピックスとしてMRSAによる血流関連カテーテル感染症と、同時に抗菌薬投与によって薬剤耐性緑膿菌が出現した事例を報告する。抗菌薬に敏感に反応する緑膿菌のさまを浮き彫りにする。抗菌薬の使用傾向を見るには緑膿菌が最も適しており、各診療科別にその傾向を経年的に追うことで、適正使用を促す。

院内で問題と思われる耐性菌として、カルバペネム耐性緑膿菌、ESBLsとVCMしか感受性をもたない高度耐性腸球菌 *Enterococcus faecium* があげられる。また最近、IPM耐性プロテウスの出現も気になるところである。

次に市中肺炎の原因菌となるインフルエンザ菌と肺炎球菌の耐性傾向を述べる。インフルエンザ菌は年々高度耐性BLNAR(β -ラクタマーゼ産生アンピシリン耐性インフルエンザ菌)株が増えており、大館、北秋地区の問題ともいえる。この背景には経口セフェム薬の安易な投与があると、全国的にも以前から指摘されている。

一方、当院ではカテーテル関連血流感染症のサーベイランスを2004年から独自の方法ですすめている。2006年後半は比較的落ち着いていたが、2007年4月から5月にかけてカテーテル感染症の増加が目立ち、マキシマムプレコーションによる挿入と、カテーテルの衛生管理を呼びかける。

おわりに、耐性菌をつくらない、拡散させないためのキーワードは『抗菌薬の適正使用と手洗いの徹底』である。

4) 大館市立総合病院における血管留置カテーテル感染症サーベイランスの動向と問題点 ～感染率の低下をめざして～

2007年12月5日 大館市立扇田病院院内感染対策研修会 (大館市立扇田病院)

太田和子

3. 展示会

1) 健康と検査展 平成19年12月16日 (秋田市)

○ 工藤 協子

- ①尿検査 ②簡易血糖検査と糖尿病療養指導士による相談 ③特定健診・保健指導
- ④アレルギー検査 ⑤呼気温度測定 ⑥超音波検査 ⑦展示
- ⑧医師による総合的健康相談が行われた。